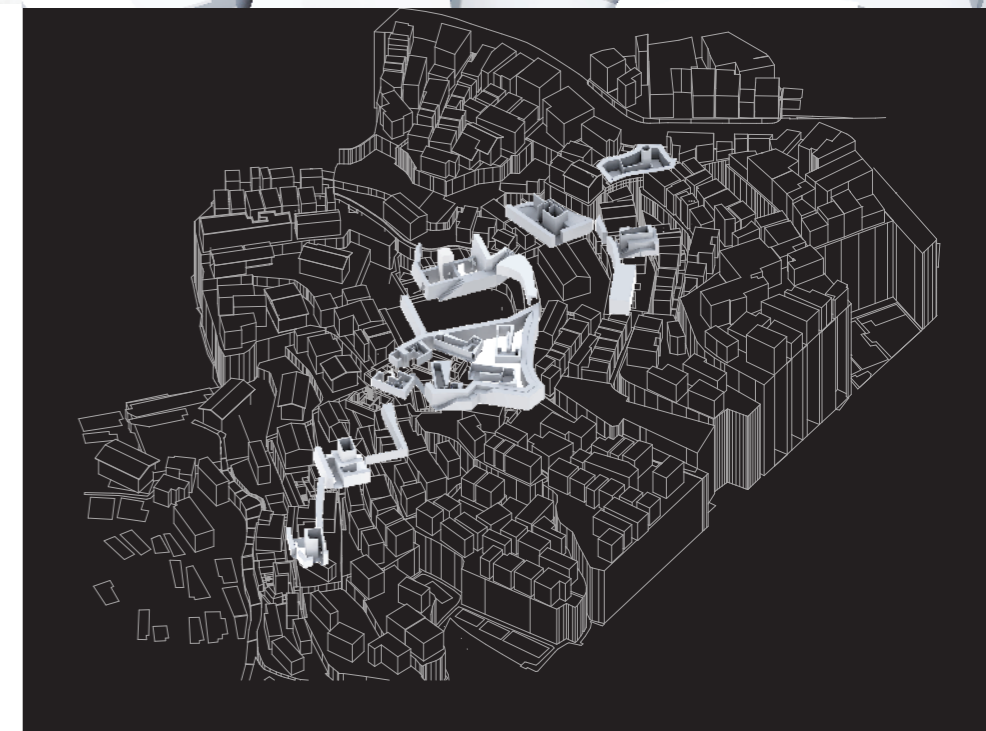
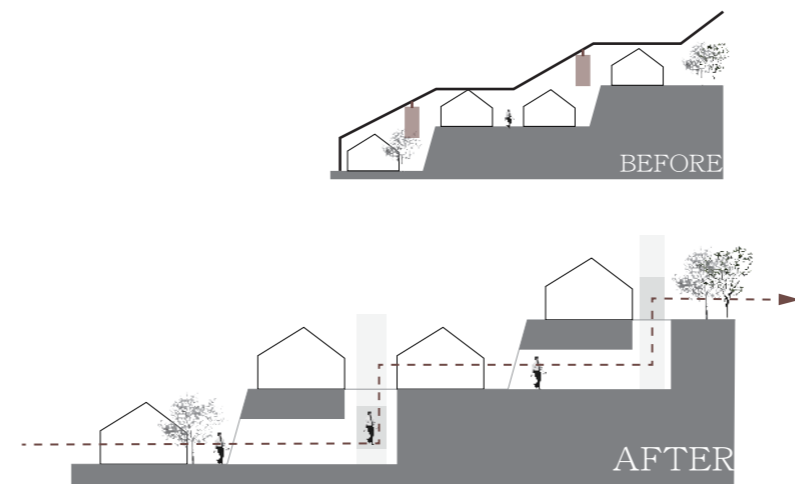


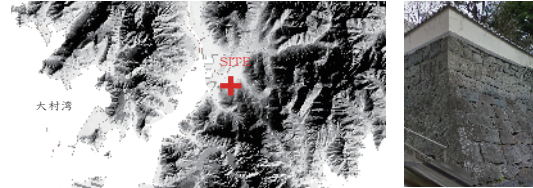
擁壁を紡いだまち  
 バリアフリーな擁壁エレベーターによる斜面住宅地の未来

空っぽな斜面地擁壁に恒久的なまちの動線としてのエレベーターを挿入する。  
 景観を害し、短期的な更新を繰り返すたびに大規模な工事が必要であった  
 これまでの斜行エレベーターに代わる、新たな大地の回廊。  
 それはこの場所に世紀を越えて住み継ぐための条件であり、再びまちに  
 集まって住むことを喚起する、人にやさしい斜面地住宅を整備する。





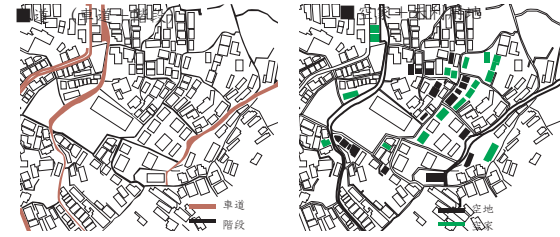
### 01 擁壁と造成地のまち



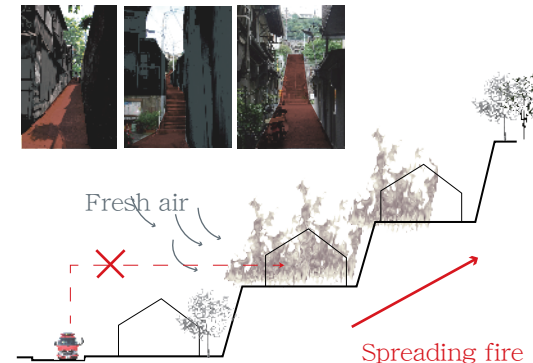
急峻な坂と石擁壁で有名な東山手町。まちの随所に石を用いたデザインが見られる。

### 02 空洞化する斜面住宅地

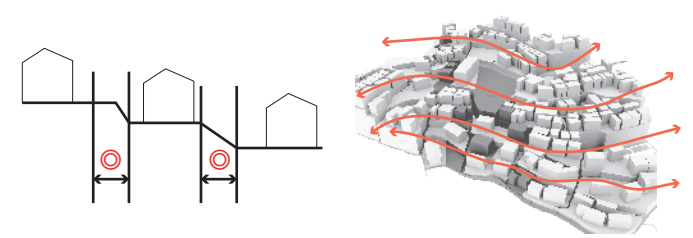
坂が織りなす美しい風景でのくらしは人口減により年々空洞化している。



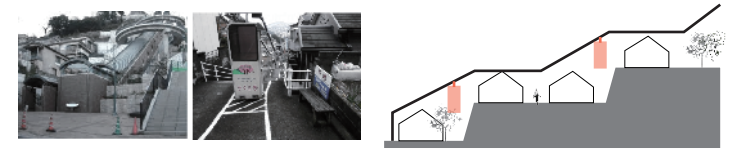
■限られた車でのアプローチ ■車道から遠い街区中央に多い空家。高齢化、人口減でくらしにくくなる斜面



### 03 高低差による隣棟間隔と水平な繋がり



### 04 土地に不適な斜行エレベーター

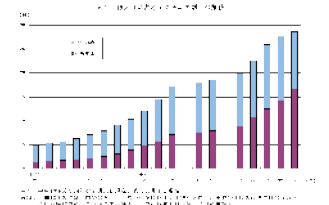


現在の周辺の斜行エレベーターは景観を害し、頻繁な取り替えが必要であるためサステナブルで移動しやすい新たな移動空間が求められる。

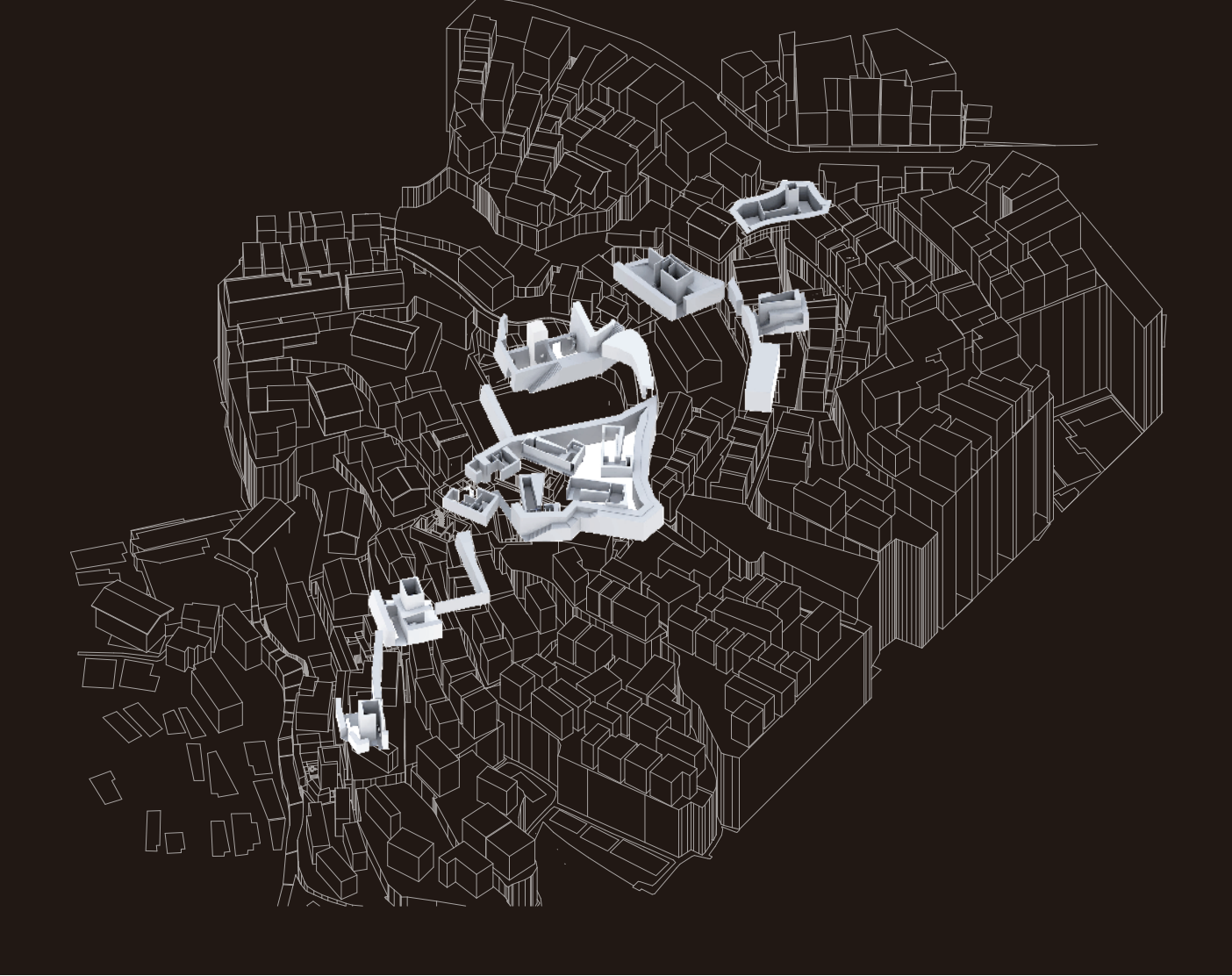
### 05 斜面住宅地に取り残される高齢者



古い斜面住宅地には多くの高齢者が住んでいるが、若年層は利便性を求め中心市街地へ離散していく。再び斜面住宅地を住みやすく、バリアフリーな環境へ変革する必要がある。現在は福祉学生による高齢者介護や荷物運びと行ったアクティビティの普及の兆しがある

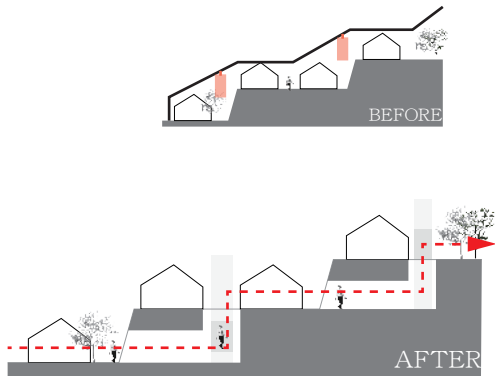


<http://www.stat.go.jp/data/topics/info1751.htm>



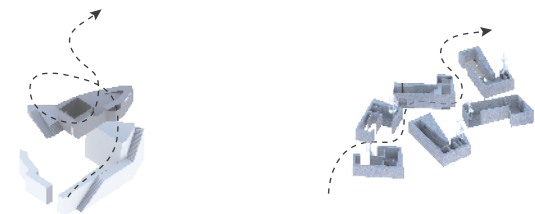
擁壁を紡いだまち  
 バリアフリーな擁壁エレベーターによる斜面住宅地の未来

空っぽな斜面地擁壁に恒久的なまちの動線としてのエレベーターを挿入する。  
 景観を害し、短期的な更新を繰り返すたびに大規模な工事が必要であった  
 これまでの斜行エレベーターに代わる、新たな大地の回廊。  
 それはこの場所に世紀を越えて住み継ぐための条件であり、再びまちに  
 集まって住むことを喚起する、人にやさしい斜面地住宅を整備する。



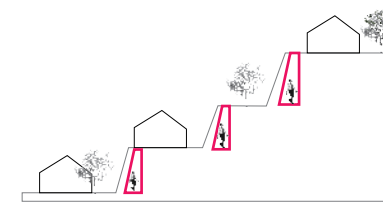
CONCEPT

斜面地擁壁 × エレベーター

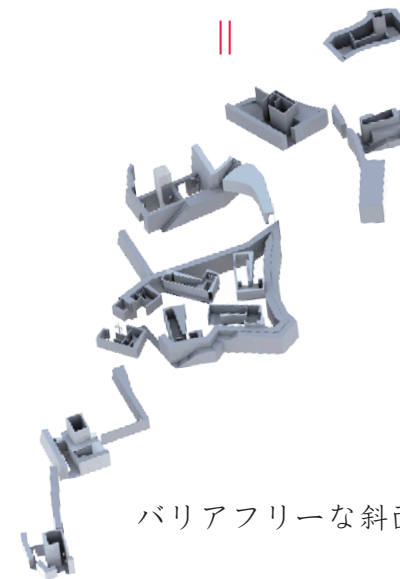


擁壁 EV

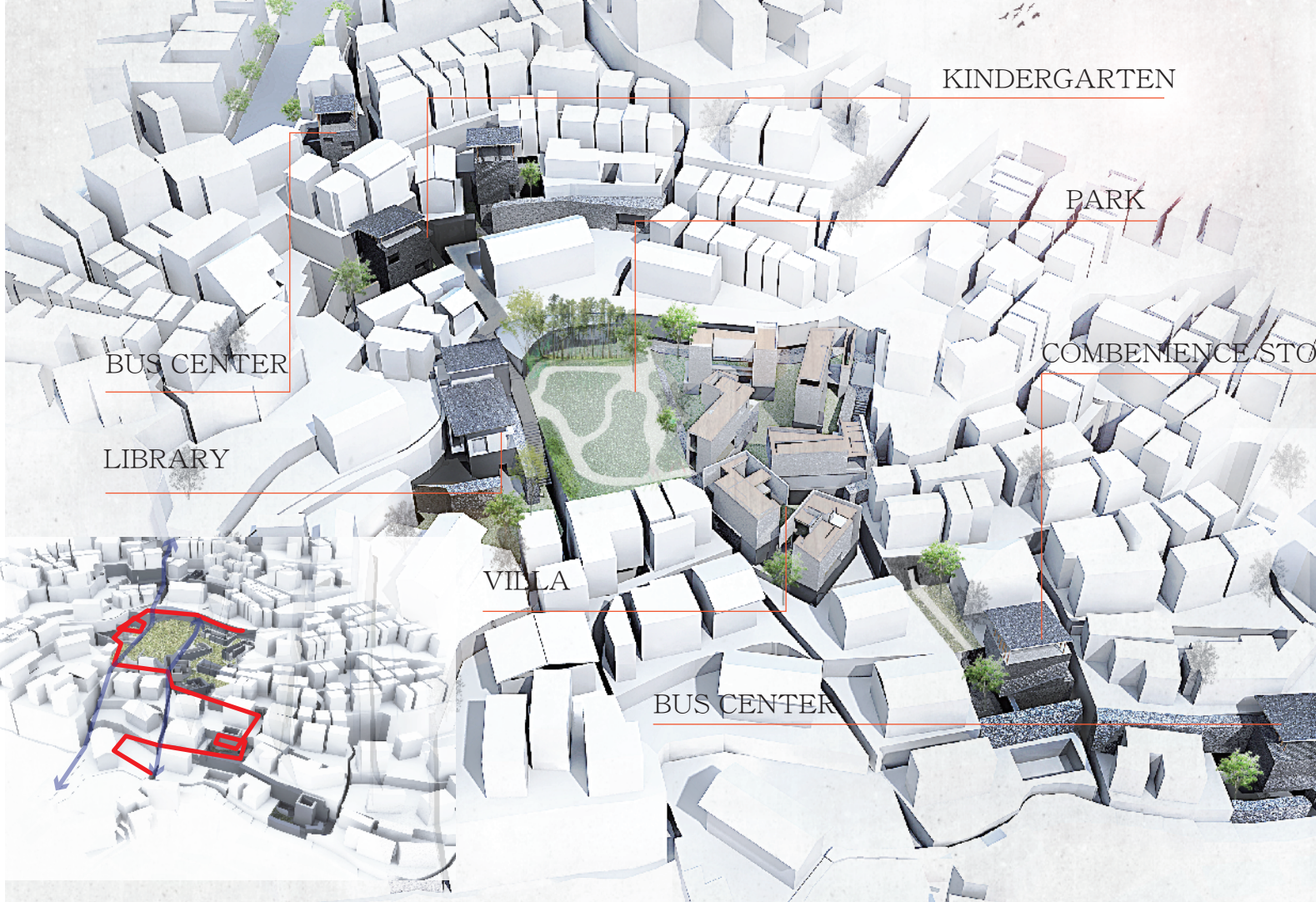
擁壁スロープ



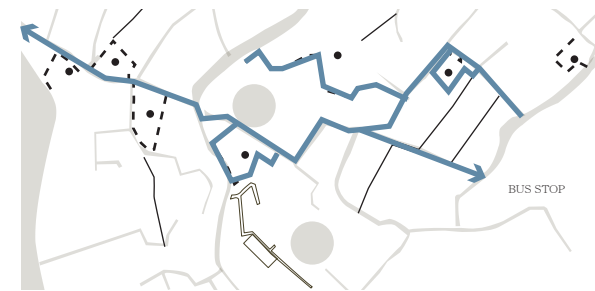
既存擁壁の水平動線



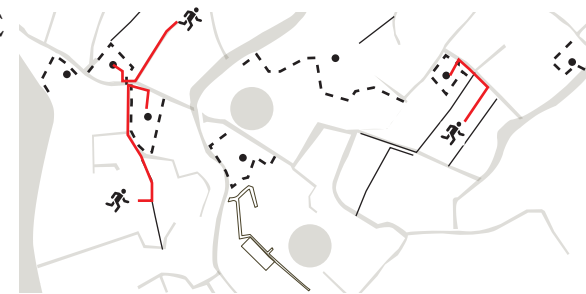
バリアフリーな斜面地動線



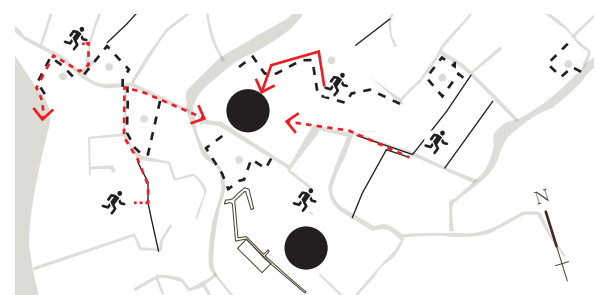
DAILY CIRCULATION Pocket Shelter



SMALL DISASTER Pocket Shelter



BIG DISASTER Pocket Shelter Major Evacuate Point



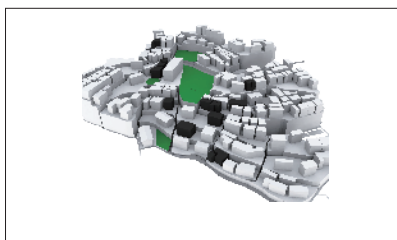
PROCESS 空き家の解体と避難動線のスロープ状の動線確保

phase1:Plot vacant housing

phase2:Connect each spaces along axis

phase3:Plot shelter with existing wall

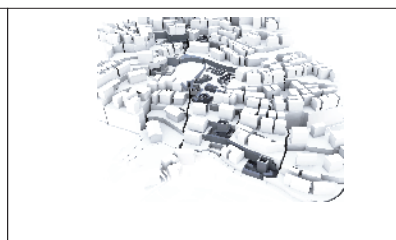
phase4:Put on the public facility



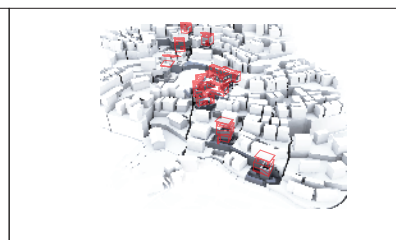
空洞化が進む斜面住宅地



街区中央にできた地域の余白をつないでいく



周囲の景観、高さ、風向を基に塔状ボリュームを配置

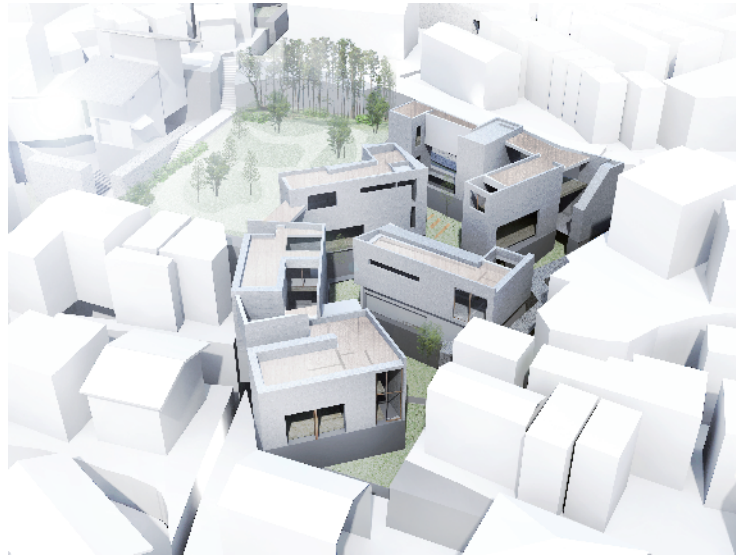


各塔のスロープ、EV は住民に開かれ回廊が塔を繋ぐ。

REGEN

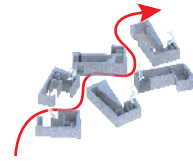
- Major Evacuation Points
- Temporary Shelter
- new slope
- retaining wall path , Small Road
- Artillery Road
- Evacuation Route-width at least 4M

PROPOSAL | 二つの擁壁エレベーター



擁壁エレベーター

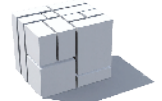
造成された擁壁内部の土を除き、エレベーターとスロープを挿入することで高低差をキャンセルしたバリアフリーな縦動線を生むEV。既存擁壁もコアへの新動線として使え、主に狭い敷地に適している。



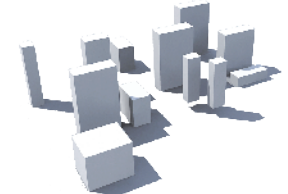
擁壁スロープ

大きい土地を活かして敷地内にジグザグの斜路をつくることでのばりやすいゆるやかな動線として造成されたEV(スロープ)。擁壁に囲まれることで災害時には公園への避難動線として機能する。

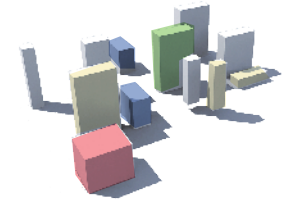
PROGRAM | 小さなタウンホールが紡ぐまち



大きなひとつの地域交流施設



小さいいくつかの機能へ細分化



それぞれがEV、スロープといった地域の為のバリアフリーな公道を持つ



高齢者



townhall



核家族

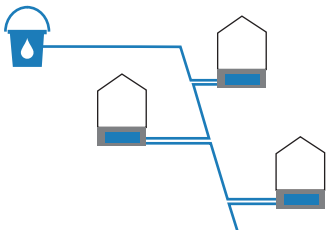


福祉学生

斜面住宅地に取り残される高齢者と生きるための小さく細やかな機能の配置。

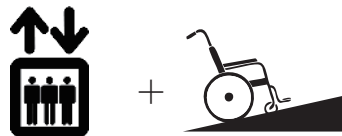
DISASTER PREVENTION | 災害の為の新たなまちのデザインコード

1



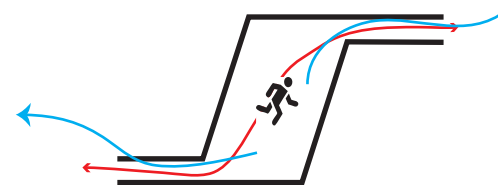
雨水を利用した防災用の貯水タンクを設けること

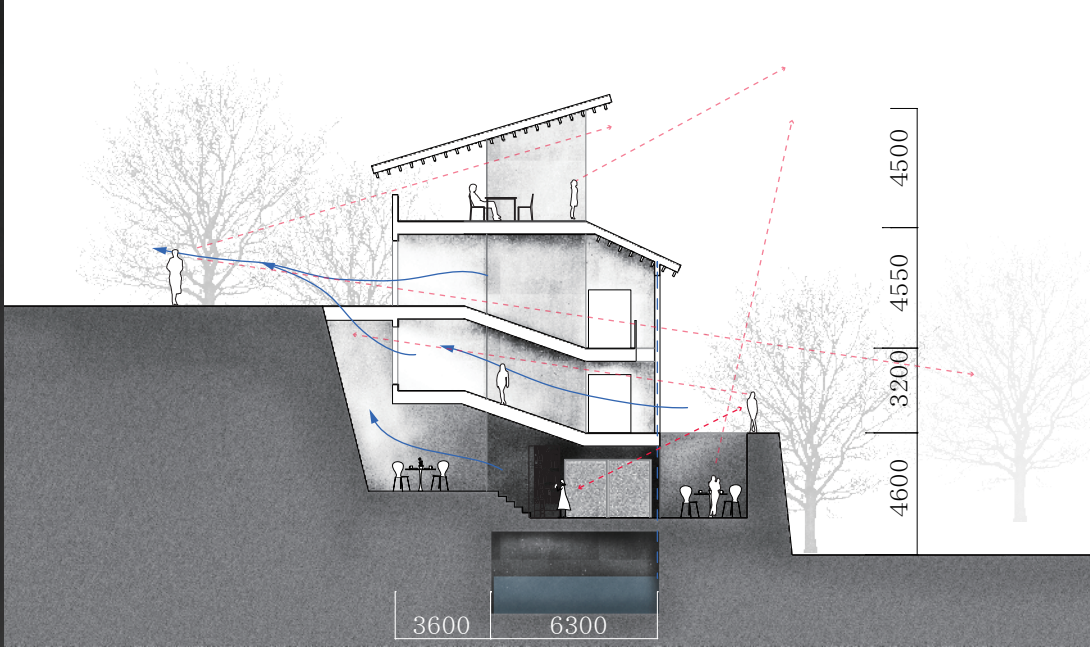
2



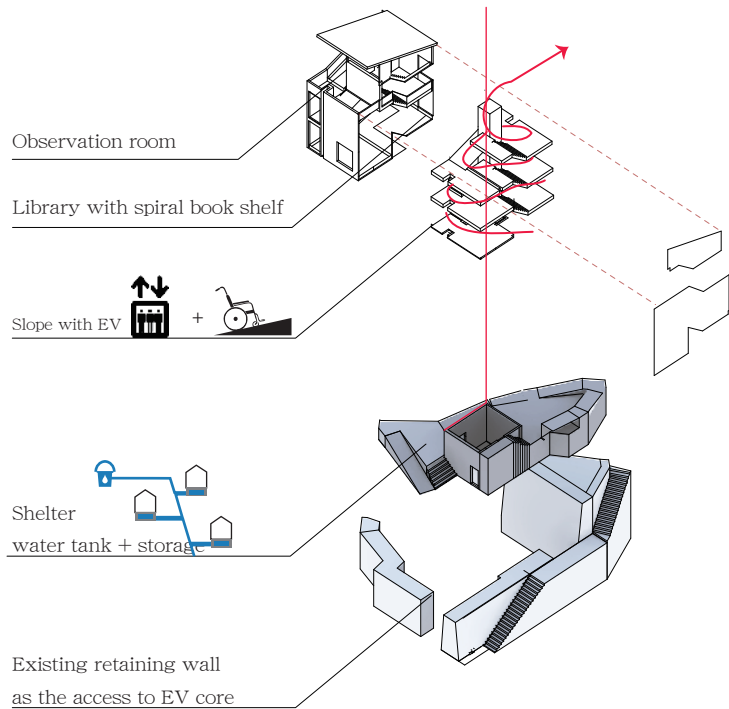
必ずエレベーター、スロープを持つこと

3

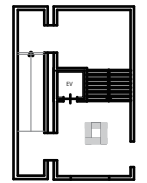




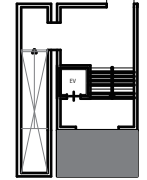
COMPOSITION



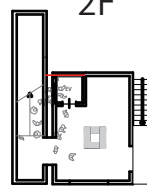
DRAWINGS



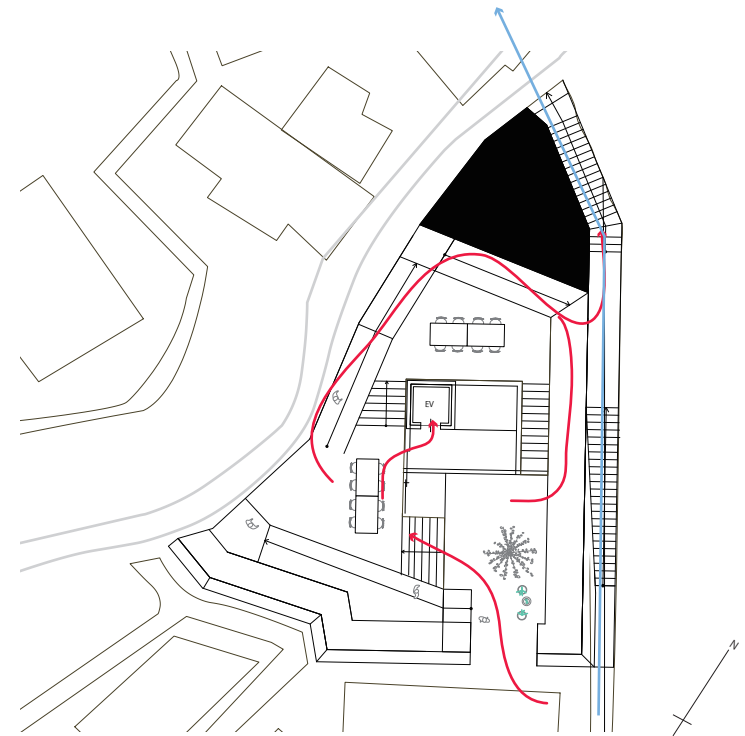
3F



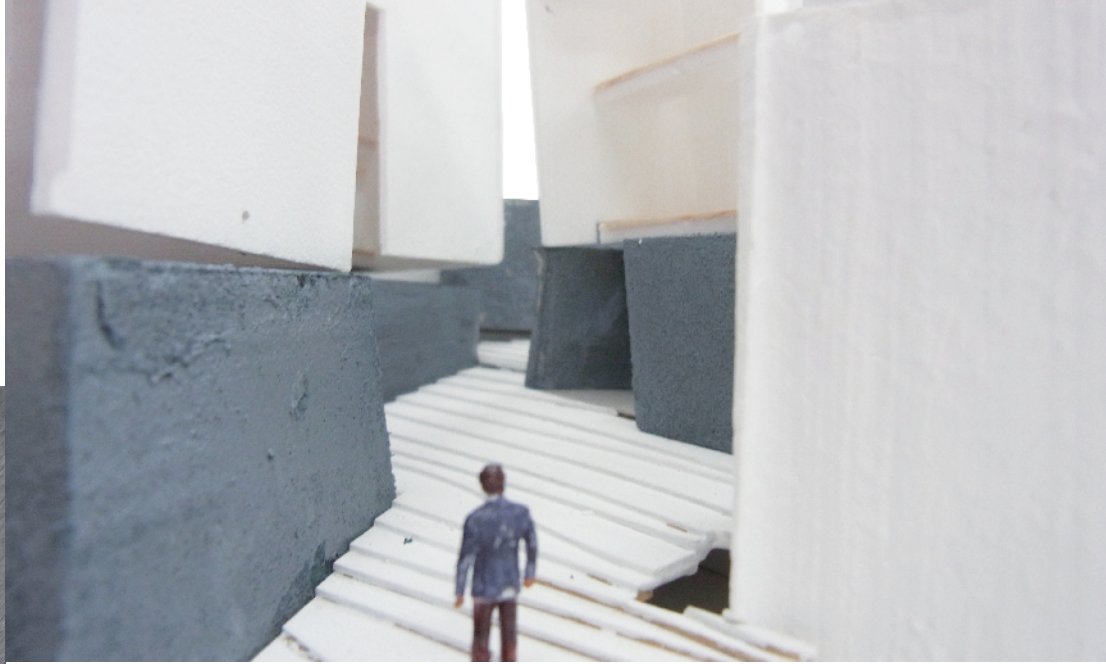
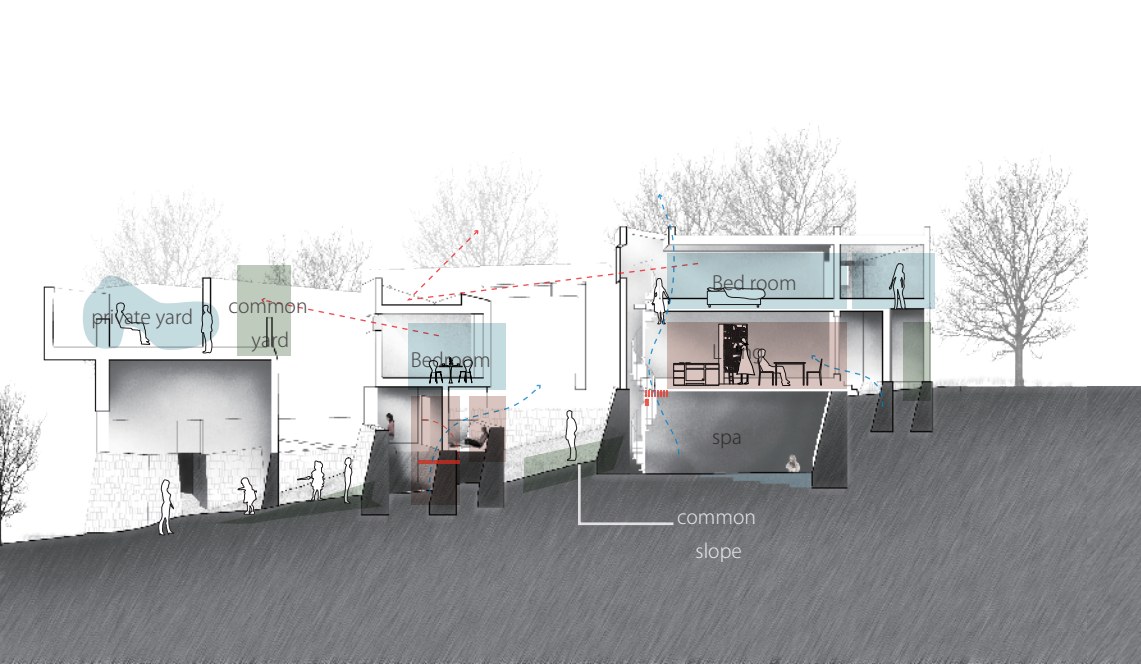
2F



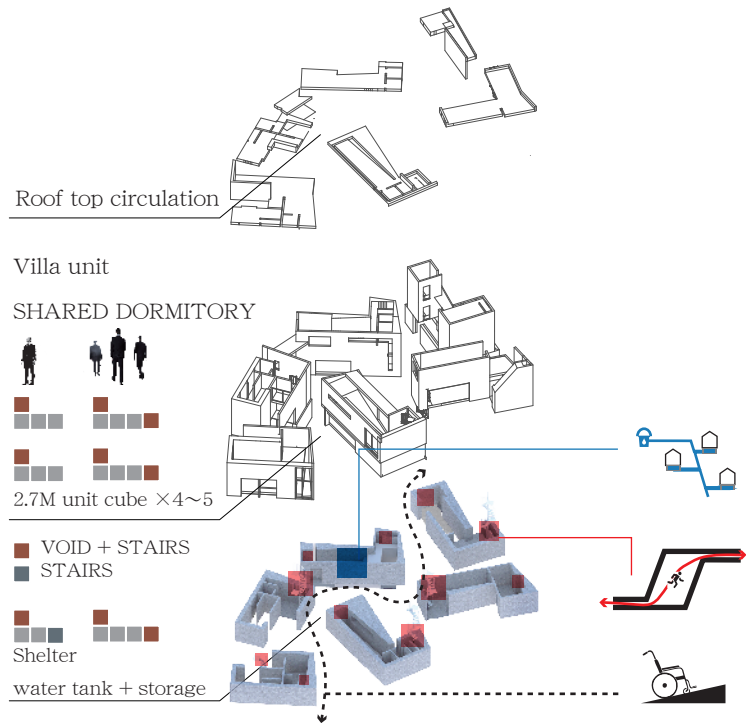
Plan 1/300



B1F plan, arrangement plan 1:300



COMPOSITION



DRAWINGS

